

■三宅雪嶺(雄二郎)

みやけせつれい

桜田門外変・1860=

ジャーナリスト。蘇峰の『国民之友』発刊翌年、『日本人』を発刊、哲学的に幅広く発言し、学界にも影響。

加賀国金沢で、加賀藩家老本多家の儒医三宅恒の第四子に生まれた。母は洋医黒川玄龍の長女滝井。

薩長同盟・・1866= 6歳：河波有道の塾に入門。

明治維新・・1868= 8歳：
戊辰戦争終・1869= **9歳**：

廃藩置県・・1871=11歳：仏語学校に入学するが、伯父黒川良安の勧めで、英語学校に移り、

明治6年政変 1873=13歳：

初の民間工場1875=15歳：名古屋の官立愛知英語学校に入学。

三つの反乱・1876=16歳：東京開成学校の予科に入学。

西南戦争・・1877=17歳：この年、東京大学が開校して以来、文学部哲学科が置かれている。

大久保暗殺・1878= **18歳**：

琉球処分・・1879=19歳：落第、退学騒動のち、復学して東京大学文学部に進み哲学科を専攻。哲学科はまだ1人であった。
_在学中フェノロサの影響を受け、図書館に通いつめてスペンサーやヘーゲルなどの著作を読みあさる。

明治14年政変1881=21歳：

岩倉具視没・1883=23歳：_東京大学文学部哲学科を卒業。処女論文「日本人民固有ノ性質」発表。同大学編輯所に就職、

帝国大学始・1886=26歳：「基督教小史 第1冊」。編輯所の文部省移管に伴い編輯局に移り、「日本佛教史」を出版、

国民之友始・1887= **27歳**：この年、父死去。_役所仕事に腹を立て文部省編輯局を辞職。東京専門学校と哲学館で哲学を担当、

初の対等条約1888=28歳：*政府の欧化政策に反対して、大同団結運動に参加し、志賀重昂らとともに『政教社』を設立して雑誌『日本人』を創刊。10年前に明らかになった高島炭鉱坑夫虐待事件に対し、『日本人』紙上で、坑夫を支援。

帝国憲法発布1889=29歳：_ヘーゲル哲学を紹介した「哲学涓滴」、

帝国議会始・1890=30歳：「論理学」、

足尾鉱毒始・1891=31歳：*この年刊行の「真善美日本人」「偽惡醜日本人」で、『護國』と『博愛』は矛盾しないと主張、陸羯南、徳富蘆峰らとともに明治中期の代表的言論人となる。続けて、『亞細亞』を創刊。南太平洋諸島巡航に出発、

大本教・・1892=32歳：「我觀小景」。_帰国。すでに有名になっていた女流作家田辺龍子(花園)と結婚。

郡司千島探検1893=33歳：「王陽明」、

日清戦争始・1894=34歳：「馬鹿趙高」、

白馬会・・1896= **36歳**：

八幡製鉄始・1897=37歳：高島炭鉱は、日本で最も早い納屋制度の廃止に至る。

教科書疑獄・1902=42歳：歐米漫遊の途に上り、

日比谷公園・1903=43歳：帰国。小谷保太郎編「雪嶺漫筆」、

日露戦争始・1904=44歳：「大塊一塵」、

日露戦争終・1905= **45歳**：

満鉄発足・・1906=46歳：「小泡十種」

韓国反日暴動1907=47歳：_足尾鉱毒事件で被害農民を強く支援。『日本人』を『日本及日本人』と改題して以後主筆となり、

アラギ創刊・1908=48歳：『明治丁未題言集』、

伊藤博文暗殺1909=49歳：_『太陽』の『理想的新聞雑誌記者』の第1位に選ばれた。この頃からライフワークとして体系的な著述に着手。
この年の「宇宙」以降、「同時代観」として、本格的な編年体で書かれた哲学論文を書き続けて行く。

韓国併合・・1910=50歳：人物論集「偉人乃跡」。_『大逆事件』で幸徳秋水を大いに弁護。

明治天皇没・1912=52歳：

大正政変・・1913=53歳：_『明治思想小史』。長女が政治記者中野正剛と結婚。

第一次大戦始1914= **54歳**：

21ヶ条要求・1915=55歳：「青年訓」「三宅雪嶺修養語録」「三宅雪嶺人生訓」「想痕」、

ロシア革命・1917=57歳：「三宅雪嶺美辞名句集」、

本格政党内閣1918=58歳：人物論集「小紙庫」、

大暴落・・・1920=60歳：「内実の力」。_『女性日本人』を創刊。自宅への“押しかけ会”ができるほど人気があった。

原敬首相暗殺1921=61歳：

関東大震災・1923= **63歳**：*内紛により『政教社』を離れ、女婿中野正剛と、『我觀』を創刊。

金融恐慌・・1927=67歳：「三宅雪嶺格言全集」、

世界恐慌・・1929=69歳：_『同時代観』はこの年まで20年連載し続けた。

海軍軍縮条約1930=70歳：三宅文庫が落成。

満州事変・・1931=71歳：

五一五事件・1932= **72歳**：この年創刊の『帝都日日新聞』の社賓となり、一日おきに社説を寄稿。

帝人疑獄事件1934=74歳：「隔日隨想」、

二二六事件・1936=76歳：「初台雑記」。『我觀』を『東大陸』と改題、

日中戦争始・1937=77歳：_『帝国芸術院会員』、

健保+総動員 1938=78歳：「面白くならう」『武将論』、

第二次大戦始1939=79歳：「今の時局に野依君が十人あれば」「英雄論」「人物論」「生活の磨き」「祖国の姿」。_林銘十郎内閣の組閣にあたって文部大臣就任を要請されるが辞退。

日米開戦・・1941= **81歳**：

・・・・・1942=82歳：「爆裂して」「爆裂の前」、

創価学会検挙1943=83歳：_文化勲章を授与されるが、妻が死去し、中野正剛が自刃するという不幸のなか、

年金+総武装 1944=84歳：「激動の中」。『東大陸』から、『我觀』に復題してまもなく、

敗戦・・・・・1945=85歳：_没した。

没後、「同時代史」全6巻刊行。書き続けてきた「自伝」は、のちに日本図書センターの『人間の記録』シリーズに入れられた。徹底した在野のナショナリストとしての姿勢を保ち続け、堺利彦、幸徳秋水、岩波茂雄をはじめ私淑者が多い。

中公シリーズ「日本の名著」、佐藤能丸「異彩の学者山脈」、「没年日本史人物事典」、「日本の群像」、平凡社百科事典、山田風太郎「人間臨終図巻」、インターネットWikipedia・流通経済大「雪嶺プロフィール」、